

令和3年9月1日

## 2学期始業式 校長講話

夏休みはどのように過ごしましたか？なかなか外出することもできず、ほとんど家で勉強という生徒も多かったのではないのでしょうか。学校に来る機会は限られていたと思いますが、進学講習や部活動、文化祭の準備などで頑張っている生徒の様子が見られました。今日から2学期が始まりますが、こうして無事に始業式を迎えられることをたいへん嬉しく思います。

今日は、2学期の過ごし方と、東京2020パラリンピックの障がい者スポーツについて話をします。

新型コロナウイルス感染症ですが、現在、新種のデルタ株が猛威を振るっています。昨日の全国の新規感染者数は、17713人、埼玉県では996人でした。県内は、28日連続で千人を超える感染者数が続きましたが、ようやく三桁台になりました。しかし、まだ予断を許さない状況です。

全国的な感染者数は、このところ高止まり傾向ですが、重症者数は、増加しています。医療のひっ迫からコロナに感染しても自宅で療養せざるを得ず、なかなか受け入れる病院がありません。県立学校でも夏休みに入ってから高校生の感染は増えています。保健所も対応が間に合わず、学校での疫学調査や拡大PCR検査が通常通り行われない状況となっています。そこで、9月からは、感染者がクラスに複数発生した場合、5日間程度を目安に学級閉鎖を実施することを学校として判断していきます。

このような災害級の危機の中、2学期は始まりました。教育活動はこれまで以上に感染拡大防止対策を講じながら継続していくことになります。本校では、緊急事態宣言の期限9月12日まで、登校時間を1時間繰り下げます。一教室には、20人程度を基本として、分散登校を行います。来週は、文化祭ウイークとして、文化祭準備と校内公開を実施します。

部活動は、平日のみ週2日以内、90分以内で実施します。ただし、各種大会やコンクール等がある場合は、その14日前からは埼玉県の部活動方針に基づいて実施することができます。

今回の対応で、皆さんに特に注意してほしいことは、マスクの着用です。運動時以外には不織布マスクを必ずしてください。部活動でも競技中以外は、マスクをするようにしてください。理由は、濃厚接触者となるリスクを回避するためです。今後、濃厚接触者の目安として、マスクをせず、1メートル以内で陽性者と15分以上の接触があった場合は、一律濃厚接触者相当とみなされます。そうなれば14日間の自宅待機となります。無症状が続いたとしても14日間も学校に登校できないというのは大変なことです。そうならないようにマスクを外す機会をできるだけ作らないようにしてください。

次に、パラリンピックについて話をします。現在、東京パラリンピックが開催されています。本校の卒業生が、パラリンピックに出場しているのをご存じでしょうか？バドミントン（上肢機能障害 SU5）に出場する「鈴木亜弥子」さんで

す。

鈴木さんは中学で、関東中学生バドミントン大会優勝、越谷南高校時代には、全日本ジュニアバドミントン選手権大会ダブルス準優勝など輝かしい成績を残しています。その後、パラバドミントンに転向して、2009年にソウルで開催されたパラバドミントン世界選手権では優勝を果たしました。もちろん東京パラリンピックの優勝候補です。今日からバドミントン競技が始まりますので、ぜひ鈴木さんの活躍を応援してください。

さて、東京2020オリンピック・パラリンピックの大会ビジョンは、3つあります。①全員が自己ベスト、②多様性と調和、③未来への継承です。二つ目の多様性という点では、パラリンピック競技を見ていると、いかに多様性を認め合っているかということが分かります。パラ競技は身体障害、知的障害などの障害の種類、程度によってクラスを細かく分けて参加することができます。ルールを柔軟に考えて、ガイドの支援などで工夫すれば誰もがスポーツを楽しむことができる事を教えてくれています。

2016年に障害者差別解消法が施行され、障がい者が利用できるスポーツ施設も少しずつ増えてきました。しかし、バリアフリー化や専門指導者がいないなど環境整備の課題は多いようです。この8月に障がい者への差別をなくすための人権運動「We the15」が立ち上がりました。この運動は、世界の人口の15パーセントを占める12億人の障がい者の生活を変革することを目指しています。東京2020パラリンピックに先駆けて立ち上げたこの運動は、障がい者への差別をなくし、障がいの可視化、インクルージョン(包括)、アクセシビリティ(利用しやすい)を掲げる運動です。現在、障がい者のスポーツ参加は、まだまだ十分とは言えません。スポーツ庁は、週1回以上の運動実施率を調査していますが、健常者が60%なのに対して障がい者は25%で、スポーツ庁が掲げる40%の目標にも遠く及ばないようです。

私は、以前、知的障害の特別支援学校に3年間勤めたことがあります。特別支援学校にも陸上やサッカー、ボッチャなどの大会がありました。専門の指導者もいることから特別支援学校がその先、障がい者スポーツの拠点となるといいかもしれません。

東京パラリンピックをテレビで観戦しているとそのパフォーマンスの高さに驚きと感動の連続です。皆さんの中にもパラスポーツに興味をもった人は多いと思います。これをきっかけに健常者のサポートが増えたり、パラスポーツ施設の環境整備が進んでいくといいと思います。

今日は、2学期からの感染防止対策、障がい者スポーツについて話をしました。2学期、学校の状況がどのように変化してもみなさんは主体的に勉強して行ってほしいと思います。そして、オリパラのビジョンである「全員が自己ベスト」を目指してこれからも頑張ってください。